

若者の
就労に関する
アンケート

第5回 子ども・ 若者アンケート まとめ

調査内容

【対象】

こども・若者モニターの登録者
(高校生、大学生等・20歳代、保護者)

【方法】

ウェブアンケート

【期間】

令和8年1月14日～令和8年1月31日

【回答者】

	高校生	大学生等・ 20歳代	保護者	合計
モニター数	156名	31名	199名	386名
質問①回答数 ※複数回答可	178	47	375	600
質問②回答数	156	—	199	355

【実施理由】

就職に関する情報がどの程度若者に浸透しているかを知り、
今後の施策の参考とするため

【質問①】

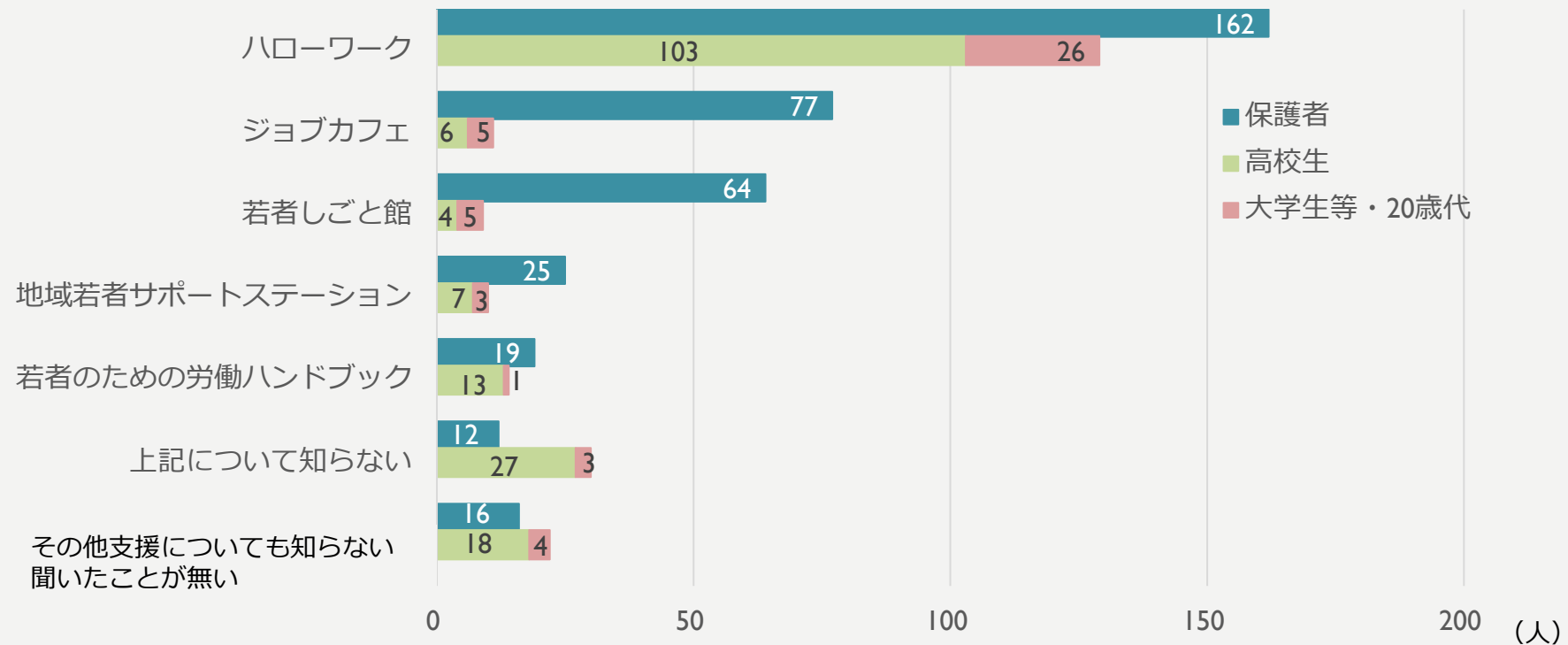
若者向けの就職支援を目的としたものについて、どのようなものかを知っている、聞いたことがありますか。

(複数回答可)

※回答者：高校生、大学生等・20歳代、保護者

【結果】

・ハローワークは比較的認知されている一方で、ジョブカフェや若者しごと館、地域若者サポートステーションなどの支援機関は若者への認知度が低く、学生の一割は支援制度を何も知らない、聞いたことがない。



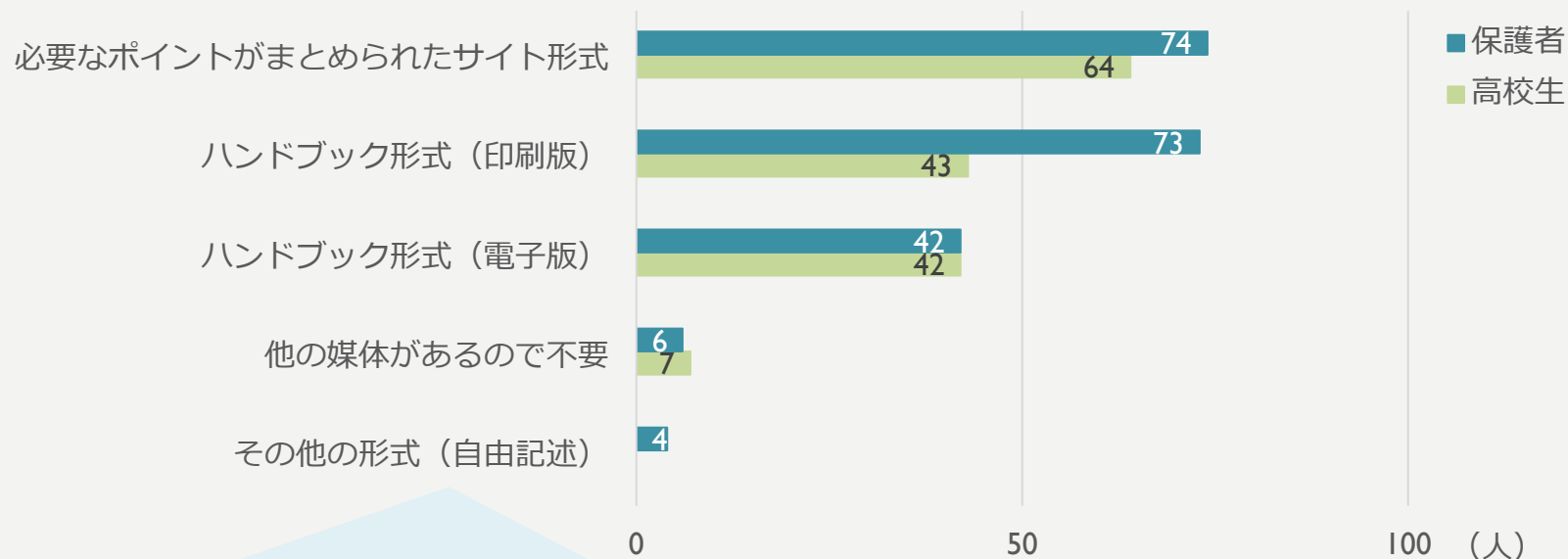
【質問②】

高校生向けの就活情報や働く上で必要なポイントをまとめたものとして、どのような形式が使いやすいですか。

※回答者：高校生、保護者

【結果】

・就活情報の提供方法については、「必要なポイントがまとめられたサイト形式」の希望が最も多く、ハンドブック形式では、電子版より印刷版が支持されている。また、自由記述では、自分に合った仕事や働き方を簡単に探せる仕組みを求める意見がある。



【その他の形式の内容】

- ・就職に関する情報を一括で得られるアプリ形式
- ・一名一社応募併願不可という不公平な現状を改善してから、企業側との人間的な交流機会を増やして欲しい。
- ・自分の特性に合った仕事選びができるよう、選択して表示されるサイト（発達障害や不得意がある子どもも悲観的にならず、自分の特性を活かせる仕事があることに気づけるようにする
- ・まだ子供が小学生のため、手にしたことが無くわからない

まとめ

今回のアンケートから以下のことが読み取れました。

① 就労を意図する前の段階から、
学校等を通じ、身近に感じてもらう取組が
接点を増やす。

② 若者は多くの情報を網羅的に読むよりも、
必要はなりやすい情報早く提供を求めている。

これらの結果を踏まえ、今後も支援施策を
検討していきます。

アンケートへのご協力ありがとうございました。